

花も嵐もある人生 親の守りを感謝しよう



夕張大教会四代会長夫妻年祭
3月31日 喜多秀和世話人先生

学生会
春の学生おちばがえり
3月26～29日



天理教夕張大教会
北海道岩見沢市9条西6丁目
〒068-0029 ☎0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
HP bariten.main.jp
yubaridai146@gmail.com

貴方への手紙 (302)

4月1日に新元号が発表されました。今月で平成が終わり五月から令和の時代になります。元号の制度は飛鳥時代の「大化」西暦645年から始まったそうです。

伝統の力は大きく世の中に令和フイバーが巻き起こっています。新時代への期待も大きく、平和で安心、安全な時代を願わずには居られません。

神様は親。人間は子供。人が我が子を思うように、親神様は子である人間がたすけあつて陽気ぐらしをすることを望まれます。人間の生きる目的は陽気ぐらし。たすけあつて陽気に暮らすことが一番望まれているのですね。

私たちが生きている間お借りしている身体、お守り頂いている命。大きなご守護に感謝して毎日を生きることが信仰です。

自分だけでなく人さまにも喜んでもらうこと。親神様と人間の親子団らんの世界が理想の陽気ぐらし世界ですね。

大きなことではできなくても毎日、

神様にお礼を申し上げ、家族や身近な人のたすかりを祈り暮らすことから幸せが広がります。毎月、この手紙を書くとき、読んでくださるあなたがごきげんでも心も体も健やかに暮らされますように祈っています。

「健康法」

私は3月に満70歳を迎えました。今のところわりと元気です。

私の健康法を言えば、緊張とリラククスを楽しみ、家族や人との会話を楽しむこと。それが良いクスリではないかと思っています。

人間は生きていくかぎりストレスを避けられないようですが軽くする方法はあるとか。何ごとにも感謝することでストレスは軽くなるそうです。私はストレスそのものを楽しめるようになることが目標です。

私たちにとって何と言っても最高の健康法はおつとめだと思います。毎日のおつとめがあります。おつとめをする心が落ちつき、感謝と明日への希望がわいてきます。人をたすけて我が身たすかる

教えを思えば、人さまの健康回復を祈ることは結果として自分の幸せの種になるのですね。おつとめは何よりの健康法です。

私は、なむ天理王のみこと、おやさま、と口に唱え、心に浮かべることもおつとめの気持ちに近いと思っています。心に唱えるとかひらめきを感じたり、前向きな気持ちになれるのです。親神様、教祖、御霊様が前から引っぱって、くれたり背中を押してくれたりして、たすけてくれているなあ、と感じます。

あなたも味わっておられることでしょう。静かに神前に座り、拝礼すると心がたすかり、不思議な力を与えてもらえます。

「おやさまご誕生祭」

寛政10年(1798年)4月18日おやさまがお生まれになりました。存命のおやさまは今年、満221歳に成られます。4月18日にはおちばでご誕生祭が執り行われます。それぞれの教会やご家庭でも毎年ご誕生祭をお祝いしたいものです。

今後の予定

- 4月18日 教祖誕生祭
- 4月19日 婦人会総会
- 4月29日 全教一斉ひのきしんごデー
- 5月19日 少年会総会
- 5月30日 夕張支部婦人会総会(2ページ参照)

★夕張大教会
ホームページ
bariten.main.jp



三月月次祭の模様

月初めには4月下旬並みと言われる暖気が日本列島を覆い、道内でも急速に雪解けが進んだが、中旬になるにつれて寒の戻りを感じさせる雪の日が続いて、春への歩みは少し足踏みの様子であった。

それでも先月よりは地面の見えるようになった駐車場に、参拝に訪れた車が列をなして並び、参拝場も集まった人の熱気で温かみを感じる祭典となった。

開扉献饌のち祭文奏上。おつとめの時間帯には少し日差しも出て、神殿が明るくなって鳴物や地歌の音も自然と力強く響いていた。

祭典後すぐ恒例の春季霊祭が大教会長を祭主に執り行われ、この度合祀された由仁分教会四代会長・大橋教弘先生の家族親族が揃って参拝した。それに続き、各

教会代表者、また各会代表者が霊様を参拝し、今の夕張を作られた先人達の足跡を偲んだ。

講話に先立って辞令が交付され、移転改称に伴って新たに結成された少年会南幌隊の育成会長と隊長が任命された。



大教会長は講話で「只今合祀させて頂いた大橋先生ですが、いつまでも心が若い先生でした。おちばでカメラを持って、どんなところへも入っていきました。前会長が検定講習の講師をしている教室にもカメラを持って入ってきたよ

夕張支部 婦人会 第46回 おつとめまなび総会 5月19日(日) 9:30

○おつとめ役割

よるづよ八首～三下り目
：上富良野、長沼、馬追

四下り目～六下り目
：直轄、幌向、峰延、旭都、幌都

七下り目～九下り目
：栗山、清真布、北夕

十下り目～十二下り目
：祝梅、夕喜元、札美

○各係

受付：幌向、夕喜元

祭儀：上富良野、長沼

神饌：栗山、祝梅 会場：馬追

うです。ユーモラスでいつも我々を笑わせてくれた先生で、非常に懐かしく思い返されます。

教務支庁にオンコの大木があります。二十年前に清真布にあったオンコを、当時会長であった母が、『教務支庁に』といつて、持って

行ったものなんです。母としては、婦人会の教区主任を辞める折に、記念樹というかお供えのつもりであったかと思えます。最近この木が枯れて来まして、移植せねばならないようです。私が教区長の間には、そのオンコの大木が見守つてくれている気持ちでありました

ので、役目を終えて枯れてきたと言いますか、不思議な事もあるなあ、と思いました。

前会長夫妻の年祭を控え、少し二人を振り返ってみます。前会長は平成元年11月6日に、享年75歳で出直しました。大正4年に生まれ、岩見沢で育つたのち、天理中学に入学。しかし教会からの送金がそのうち途絶え、学費は猛勉強して特待生となる事でなんとかなりました。寮費は払えず、兵神

詰所の会長宅でお世話になる事になりました。居候の身ながらご飯を十杯も食べるので、物の無い時代、婦人さん達には苦い顔をされていたようです。その後、旧制高知高校に進学。在校当時に前会長が寮歌を作っていて、どうやら今も残っているようです。少し紹介

します(一節を歌う)。それから皆さんご存知の通り、東京帝国大学へと入学します。金が無いので行けない、と本人は思っていたようですが、天理教一れつ会の管外扶育生の第一号となって奨学金によつて入学できたのです。

一度目の出征、そして結婚、二度目の出征とその後の奇跡的な復員については、色んな所でお聞きになつていいると思えますが、改めて少し。終戦時、中国で関東軍の経理部付になつていた前会長は、自分の携わつていた工事の労工達の扱いに困つていました。日本が敗戦となれば工事の意味を失くし、働いていた2万もの労工達に給料を払えないと、暴徒と化してなぶり殺しに遭うだろうというのです。司令部で偶然にも昔の教官であった大尉に会い、話をすると「使えるか分らんが」と小切手を書いて渡してくれました。これを急ぎ換

金し、中国の労工やその家族、赤ん坊に至るまで分配し、事なきを得たのです。また、匪賊に囲まれて銃殺される寸前だった事など、筆舌に尽くし難い苦勞をして、日本に戻ってきたようです。

前会長夫人は大正10年神崎分教会(当時)に生まれ、生野高等女学校を卒業。若い時から信仰に熱心な人だったようです。夕張から前会長の妹が嫁いでいたのもあつて、交換という事ではありませ

が、前会長夫人が夕張に嫁いできました。前会長は復員してから、向かいの農業高校の先生を1年間勤め、その後おぢばの文教部へ行き、さらに専修科副主任と親里での生活が続きました。その最中生まれた私は、文教部勤めの父に因んでか、二代真柱様に『文雄』と付けて頂いたんです。北海道に戻つてから、まず父が、そののち母が北夕分教会の会長を務めました。それと少年会活動にも注力し、昭和32年の夏に第1回夏季練成会が開かれ、それから毎年行われました。大教会陸級の時には発足した少年会夕張団の団長に母がなりました。思い出されるのはバス団参の事です。道中の観光地を寄りながらバスでおちばまで帰る、夕張としては画期的なものでした。多くの人が未だに楽しかった思い出を語っています。また婦人会長様をお迎えした婦人会総会は、130名の参加者があつて、大変な賑わいになった事を覚えております。

出直しの折には、父の時には私

が手を握つており、また母の時は好道さんがそばにおりました。これは一つ親孝行であつたなど思い返します。この度の年祭は喜多先生をお迎えして務めさせて頂きま

す。集まつた方と共々に思い出を語り、二人を偲びたいと思ひます」と話された。

ひきよせ

(3)

前会長様、奥様の年祭しめやかに 四代会長二十年祭、並びに四代会長夫人二十年祭

3月31日午前11時より、夕張大教会四代・藤田増平会長の30年祭と合わせて三十乃奥様の20年祭が大教会神殿にて本部長・喜多秀和先生の下、務められ、120名を超す参拝者が来会しご夫妻の遺徳を偲んだ。

前日の30日から遠い近いを問わずに、子や孫、親族のみならず、部内教会からも詰め掛け、墓参や会場準備にと余念がなかった。喜多先生には、昨年交通事故に遭い、手と足を骨折、リハビリに励む処を祭主としてご来会になるという事で、歩行や立ち振る舞いに支障がないよう心を配ると共に、飛行機に乗ってお越しいただけるかどうか心配をしたが、順調に大教会長とおちばを発ち、関西空港から新千歳空港へ。30日夜は札幌市内のホテルでお休み頂いた。

明けて31日、小雪がちらつき冷え込んで、まだ春遠しという朝、玄関先も掃き清められ、準備万端整った処に喜多先生が到着、客間に安着頂いて、祭儀の打ち合わせをした。定刻の11時、神殿は祭儀も参拝者もすべてイス席で用意され、奏楽の中、指図方の先導で御入場し開式となった。四社礼拝



し着座の後、枝ぶりも立派な大玉串を奉献し、祭文を奏上。先生は前会長様奥様の御生涯と道の上での御事歴を述べたが、実に、夕張全体が神殿普請後の借財を抱えていた道中から、戦中戦後の動乱の時代をご守護を頂いて駆け抜け、子弟育成に励まれながら、昭和48年には大教会に陞級し、その後詰所の開設、百二十八母屋の普請、鼓笛隊の創設と育成などに全力で取り組んで通られたそのご足跡を辿られ、ご遺徳を称えられた。それから参拝者は順にオンコの玉串を奉献して参拝し、在りし日を偲んだ。

先生はご挨拶で、道を通る中に



は様々な事がある、と前会長様、奥様の御事績に触れながら、ご自身の事故による身上について語り、その中でも神様の不思議なおたすけを頂いてきた、それぞれの御守護を「こふき」として子供や関わる人たちに語り、書き記して末代の助かりの元にして欲しい、それが霊様にもお喜び頂く事でもあるとお話下された。

年祭の直会は食堂が立机ですべて用意され、前会長様奥様の思い出のアルバムがスライドショーで映し出されて、それぞれの思い出の中の在りし日の姿と重ねて、懐かしくまた慕わしく胸を打つものとなった。前会長様が高知高校時代に作詞した「巨浪逆巻く」は旧制高知高校の南溟寮歌(昭和九

年)として歌い継がれているものと、大教会長と大和さんが歌って披露して、バンカラが一世を風靡した時代を彷彿とさせるものであった。帰りにはなごり雪も姿を消し、北国の空に渡り鳥がシベリアを目指すべく飛んでいて、客間の庭の前会長様が植えたこぶしの大樹も新しい枝を伸ばし、つぼみも大きくしているのが見え、春近しと想起させた。

二、仰げば高き白雲の
遙けき理想、混濁の
世はさらばあれ、満身に
たぎる血潮を誰か知る
三、夏草茂る其の上の
城の高處に佇みて
海をのぞめば永久の
詩聖の言に涙湧く
~~~~~  
七、今南溟の暁を  
告げて高鳴る鐘の音に  
破邪顕正の響あり  
強き自由の響あり  
豆情報・1967年のNHKドラ  
マ『ケンチとすみれ』主演の藤岡  
琢也さんが南溟寮にてこの曲を歌  
うシーンがあるそうです。  
NHKにも元のテープが無い幻  
のドラマとのこと。(インターネット調べ)

喜多先生は1日の昼頃の便でおちばへ向かわれ、夕張詰所のスタッフが迎え、お送り申し上げた。

### 『巨浪逆巻く』

作詞・藤田増平

一、巨浪逆巻くわだつみに  
時移るひて幾春ぞ  
花紅に燃えをれど  
凋落裡に秘むかな



## 婦人会 ひなの会開催します

6月23日(日) 9:30 ~ 14:30

★昨年は女鳴物練習、ケーキ作り、ひのきしん等  
をしました。女子青年を卒業した26~40才  
位の婦人会員さんの参加をお待ちしています  
(昼食、託児あります)

### 春の学生おぢばがえりへ 学担として参加して

竹田 和人(馬追)

私は3月25日から29日までの間おぢばがえりをさせて頂きました。春の学生おぢばがえり(以下、春学)に学生担当委員(学担)として参加させて頂くためです。

私は前年度まで夕張学生会の学生会委員長としてほかの学生と共に春学に参加していましたが、今年度は学担として参加の為とても緊張しました。

学担として学生からどんなことを要求されるのか、また、今年度からほかの学担も入れ替わり新しい体制であり春学に行ったことのあるスタッフは僕だけでした。

期間中は、学生に一番近い年齢・立場の人間として、学生会委員長との渡部佳太と話し合ったり、



直属アワー

学生たちとコミュニケーションをとることはできましたが、他のスタッフが諸々の裏方の業務や手続きなどをしてくれていました。また、直属アワー(夕張の学生が集う時間)についても私はほとんど考えることができず、他の委員さんに任せるばかりでした。けれど、今回こういった周りの方々の協力あつて、私は学生たちと近い距離を保ち、元委員長として佳太のサポートが出来たと思います。

### 親子で協力! みちの子作品を 作りませんか?



毎年こどもおぢばがえり期間中、『みちの子作品展』という会場が設けられています。少年会員の絵画、書道、工作、共同作品などが応募され、テーマの部の受賞作品には賞状、賞品が授与されます!

今年のテーマは『仲間』です。励ましたすけあう一手一つの喜びを親子で考えて表現しませんか?

審査対象作品のサイズ規定などがあります。詳細は大教会の事務所までお問い合わせ下さい。なお、規定外でも自由作品として展示できます。

(本部へ切: 6月末)

また、大教会でも少年会総会の日に作品を募集、展示しています。展示後こどもおぢばがえりの作品展にエントリー出来ますので、ぜひ作品をお寄せ下さい。  
※昨年は夕張から2作品エントリー



アメリカ村でたこ焼き



戎橋のグリコ看板

私は最近、デイケアに通い、自立するため努力をしているところですが、自分一人ではできないことがたくさんあると、いろいろな場所です感ずるばかりです。春の学生おぢば帰り式典では真柱さまはいらっしゃらなかったものの、学生たちは頂いたお話を正直に受け取り心に収めている表情でした。

私もまだまだ周りへの感謝が足りなかったり、未熟な部分を正面から受け止めて進んでいくべきだと春学を通して再確認することが出来ました。

夕張学担として、学生が居やすい場所を作っていくために、これからも努力していく次第です。夏には少年会と合同で海に行く企画も構想中です。

どんな場所でも成長するきっかけはありますが、お道に関わり、友達と一緒に、もしくはここで友達が出来たりもして、大きく成長するきっかけを掴むことができる場所だと私は思います。

歳の近い人間同士で考え、伝え方を学び、みんなで目標を達成する喜びを、学生の時しかできない体験をするべきだと私は思います。学生みんな楽しんでいきましょう!

### 庶務部 3月

- ▽初席 松尾 奎斗(継立) 3・11
- 渡辺 友基(鹿水) 3・27
- ▽教職舎増築 お運び 3・26
- ▽学生生徒修養会 係員
- ・高校生卒業生コース
- ・大学部
- 渡部 辰大(善進道)
- 竹田 沙織(馬追)
- ▽学修高校卒業生コース
- 三井 聖愛(直轄)

|            |      |
|------------|------|
| 中島 望愛(峰延)  | 3・14 |
| ▽詰所ひのきしん   | 3・15 |
| 山根ふじの(善進道) | 3・23 |
| 松本 勝博(神富)  | 3・30 |
| 矢野 宏信(富陽)  | 3・17 |
| 矢野 明子(富陽)  | 3・21 |
| 渡部 佳太(清真布) | 3・26 |
| 西山菜穂子(善進道) | 3・27 |
| 西山 育夫(善進道) | 3・30 |
| ▽おまもり 2件   | 30   |

### 大教会日誌抄 3月

- 1日 たすけ推進会議
- 3日 会長夫人、馬追婦人会へ
- 7日 会長、東苗穂分巡教
- 8日 ひきよせ編集
- 11日 前会長長夫妻年祭準備
- 12日 会長、壽仁分巡教
- 14日 祭典準備、月例会議
- 15日 婦人会、元の理勉強会
- 16日 月次祭、霊祭
- 16日 あらきとつりよう入門塾17日
- 21日 少年会総会準備
- 22日 こども食堂準備
- 23日 会長おぢばへ、鼓笛練習
- 24日 第5回こども食堂
- 24日 会長、本部神殿当番
- 25日 会長夫人おぢばへ
- 26日 本部月次祭、遙拝式
- 27日 前会長長夫妻年祭準備29日
- 27日 本部春季霊祭
- 30日 喜多先生、来道
- 31日 喜多先生、来会
- 藤原先生(神崎大教会) 来会
- 四代会長三十年祭、夫人二十年祭